

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-139	22-410	厚生会 道ノ尾病院 福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Acute effects of alcohol on resting-state functional connectivity in healthy young men 健康な若年男性における安静時の機能的結合性に対するアルコールの急性効果		
執筆者		
Han J, Keedy S, Murray CH, Foxley S, de Wit H.		
掲載誌		
Addict Behav.2021 Apr;115:106786.doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106786. Epub 2020 Dec 16.		
キーワード		PMID
アルコール、機能結合性、fMRI		33421747
要 旨		
<p>アルコールの乱用と依存は、依然として公衆衛生上の重要な問題であるが、アルコールの報酬効果に関与する脳回路は十分に理解されていない。アルコールの神経活動への影響を研究する一つの有望な方法は、報酬と他の機能に関与する脳領域間の機能的結合への影響を調べることである。ここでは、アルコール問題の既往のない 19 人の健康な青年において、報酬に関連する脳回路の安静時機能的結合性に及ぼす 2 種類のアルコール用量 (0.4 および 0.8 g/kg) の効果をプラセボと比較検討した。高用量のアルコールは、低用量ではなく、報酬関連領域から感覚野および運動野、そして認知制御に関連する領域間の結合を有意に増加させた。予想に反して、アルコールはいずれの用量でも腹側線条体の結合を有意に変化させなかった。これらの結果は、アルコールが報酬関連領域から視覚および感覚皮質領域への結合に及ぼす未知の効果を明らかにするものである。</p>		